

ここに注目！ 「ブランディングによるファンづくり×消費者との接点づくり」で、長く愛される商店街に！



ポイント

商店街という「まち」、それを構成する「みせ」、そこで働く「ひと」、すべての資質・魅力向上による未来のファンづくりを目指し、「上通スタンダードプロジェクト」を実施。

また、商店街事業者と来街者を結びつける仕掛けも展開することで、より効果的な取組となっている。

[現状分析及び課題抽出]

Plan

より華やかで愛される商店街を目指して

近年、中心市街地等の通行量の減少や空き店舗の増加等が懸念されている。

こうした中、地元大学と共同で、商店街の来街者調査を実施した結果、観光客や市街地以外の来街者が多数訪れるという事実に加え、地元民による消費活動が活発であることが判明。遠方からの来街者へのおもてなし、また、地域住民に継続的に利用してもらえる商店街になることの重要性が改めて浮き彫りとなった。そのため、これまで築いてきた品のある業種構成を継承し、クオリティの高い店づくりを行いつつ、商店街としてのブランド価値や店と来街者の関係性を生み出すことにより、中長期的に華やかで愛される商店街の実現を目指す。

[対応策の優位性]

Do

商店街の質の向上と消費者との関係構築

商店街の行動指針となる「上通スタンダード」を策定するとともに、「上通スタンダード大学」を開設。接客や身だしなみ、店舗の演出など商店街会員の質の向上に資する学びの場を定期的に設け、各店それぞれが信頼される店となるよう取り組むことで、商店街全体の底上げを図っている。

商店街と来街者等を結びつける取組としては、「まちゼミ」を開催。各店独自の商品やサービスを直接消費者に伝える機会にしており、客にとっては無料で専

基本データ

上通商栄会

所在地:熊本県熊本市中央区城東町

人口:約 18 万人(熊本市中央区)

会員数:176 名

店舗数:310 店舗(買回品小売店 123、最寄品小売店 17、飲食店 70、サービス店 70、その他 30)

商店街の類型:広域型商店街

主な客層:学生・若者、主婦、高齢者

関連 URL:<http://www.kamitori.com/>

商店街概要

上通商栄会は、上通一番街、上通 1・2 丁目、上通町三・四丁目、上通五丁目と4つの商店街振興組合が連なった商店街。古くから熊本城の城下町として栄え、年間を通して観光客も多い。近隣には官公庁や企業等の立地が多く、地域経済の中心として発展してきた。

また、商店街のエリアを線ではなく面で捉えて、商店街内での情報共有に努め、独自のイベントを実施するなど、商店街振興はもとより地域コミュニティの要としての役割を果たしている商店街である。



「まち、みせ、ひと」すべての資質・魅力向上に取り組む

門店の知識が学べるだけでなく、生活の悩みが解決できたり、信頼できる店が見つかったりと満足度が向上する。

また、その他の取組として、「上通うわさプロジェクト」を展開。商店街事業者や来街者の情報(うわさ)をふきだし状のバッジやステッカーにして店舗の壁に貼ることで、来街者とのコミュニケーションの活性

化や商店街イメージの醸成が期待できる。

【効果の評価及び改善策】

Check-Action

着実なファンの増加と賑わいの創出

「上通スタンダード大学」では、分野別のプロフェッショナルを講師として招き、商店街会員の資質向上に努めた結果、各店に対する信頼感が醸成され、商店街全体の来街者が着実に増えてきている。

「まちゼミ」は、客のメリットだけでなく、店にとっても認知してもらえるチャンスで、従業員のスキルアップ、店舗の専門性が上がり、信頼関係の構築が期待できる。商店街にとっては店を紹介でき、買い回りに寄与するため、店同士の一体感や連帯感が生まれ、結果として商店街全体の賑わいにつながっている。

「上通うわさプロジェクト」は、事業者と来街者とのコミュニケーションのきっかけとして広がりを見せ、商店街全体の回遊性が向上するとともに、アートとしても上通らしさを演出できた。

今後も、「上通ファン」づくりに取り組み、恒常的な賑わいの創出を図っていく。

【実施体制等】

若手を主体に、外部とも連携

「上通スタンダード大学」は、商店街会員のほか、商工会議所や行政、一般企業社員から大学生に至るまで幅広い年代と業種を対象に学習を通じた交流を深めつつ研鑽している。また、上通商栄会は、1950年代に後継者育成を目的に「上通青年会」を立ち上げ、自主性を培うために親会から独立した活動を継続。女性部も組織され、伝統ある活動が続けられている。

こうした青年部等が率先して商店街の事業を企画し、必要に応じて、地元大学や美術館、商工会議所、行政、近隣商店街等と連携しながら各種事業を実施している。



「上通スタンダード大学」の紹介(オフィシャルパンフレット)

キーパーソン

上通商栄会
事業委員長 田原誠也



みんなを巻き込むパワーが必要

熊本の中心商店街の上通、熊本市現代美術館、青森出身のクリエイター、山本氏がコラボしてのうわさプロジェクトは特に、各店の取材、原稿作成、現場でのステッカー貼り付け、商売をしながらの作業、時間と労力(人)をかけた甲斐あって、かなり評価されました。いろんなメディアも取材に訪れ、商店街の約8割の店舗が協力してくれました。この事業は結果的には、店舗、来街者、ボランティア、みんなが笑顔になるイベントだったと思います。

「住みたいまち」・「行きたくなるまち」へ

熊本の中心商店街、上通が10年後、どのようなまちを目指すのか、若手と共にみんなでビジョン作りを日々議論しています。その結果、まだ完全ではありませんが、「住みたいまち」「行きたくなるまち」を目指す、という主たる方向性が見えてきました。「住みたいまち」、上通地区は住みやすいまちというニーズがあるのか、近年マンションも増え、居住人口が増加しています。そのようなニーズに今後も応えていけるまちを目指します。「行きたくなるまち」、上通は季節毎のイベントはもちろん、他商店街との差別化を図り、2012年から上通アートプロジェクトを継続しています。地元芸術家、今田氏とコラボしたオブジェ作製・展示、うわさプロジェクト、草間彌生イベントなど今後も歴史と伝統を守りながら、文化的な香りのする来街者に喜んでいただける商店街を目指します。